

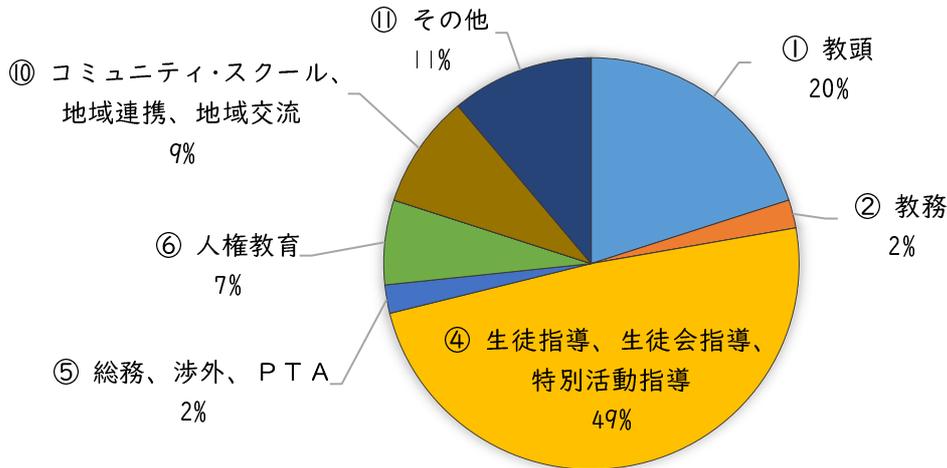
アンケート

※以下の集約において、「(44校中)」に示す数値は、複数回答可の質問において、それぞれ該当する旨の回答をした学校の割合である。各項目の割合(%)の右に示す()内の数値は昨年度の割合である。

問1：本事業の主担当者の役職・校務分掌等を1つ選択してください。

① 教頭	20.5%	(18.2)
② 教務	2.3%	(2.3)
③ 進路指導・キャリア教育	0.0%	(0.0)
④ 生徒指導・生徒会指導・特別活動指導	47.7%	(43.2)
⑤ 総務、渉外、PTA	2.3%	(4.5)
⑥ 人権教育	6.8%	(6.8)
⑦ 図書、情報、文化	0.0%	(2.3)
⑧ 保健体育	0.0%	(0.0)
⑨ 環境整備、美化	0.0%	(0.0)
⑩ コミュニティ・スクール、地域連携、地域交流	9.1%	(4.5)
⑪ その他	11.4%	(18.2)

主担当者のうち21名47.7%(昨年度43.2%,+4.5%)が④生徒指導・生徒会指導・特別活動指導担当者である。①教頭は9名20.5%(昨年度18.2%,+2.3%)である。

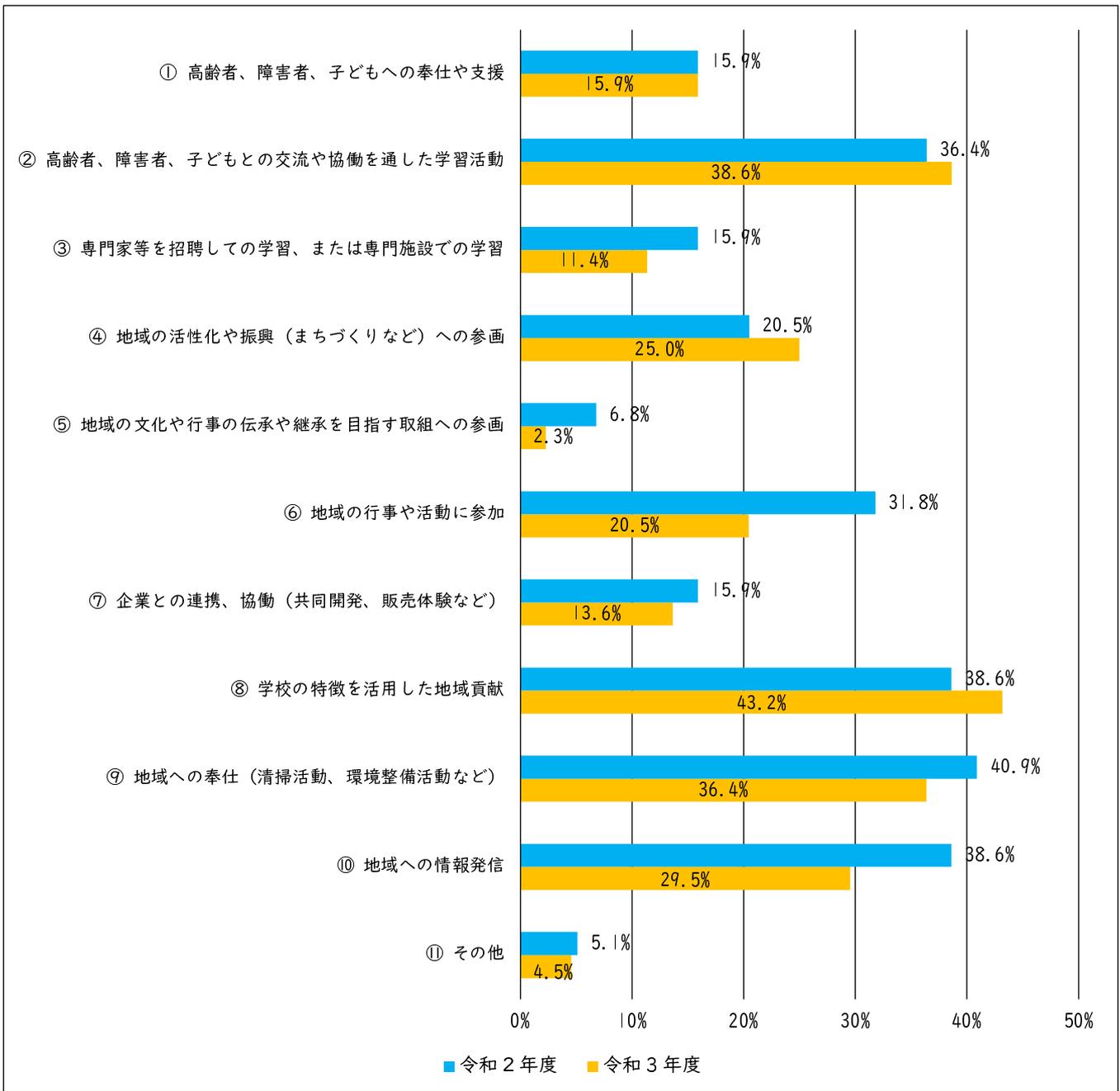


問2：本事業及び「地域と共にある学校づくり」全般(以降「全般」)において、どのような取組をしましたか。あてはまるもの全てを選択してください。

	本事業		全般	
	割合	(44校中)	割合	(44校中)
① 高齢者、障害者、子どもへの奉仕や支援	15.9%	(15.9)	22.7%	(25.0)
② 高齢者、障害者、子どもとの交流や協働を通じた学習活動	38.6%	(36.4)	47.7%	(47.7)
③ 専門家等を招聘しての学習、または専門施設での学習	11.4%	(15.9)	29.5%	(22.7)
④ 地域の活性化や振興(まちづくりなど)への参画	25.0%	(20.5)	34.1%	(25.0)
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組への参画	2.3%	(6.8)	6.8%	(9.1)
⑥ 地域の行事や活動に参加	20.5%	(31.8)	36.4%	(40.9)
⑦ 企業との連携、協働(共同開発、販売体験など)	13.6%	(15.9)	15.9%	(13.6)
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	43.2%	(38.6)	50.0%	(45.5)
⑨ 地域への奉仕(清掃活動、環境整備活動など)	36.4%	(40.9)	63.6%	(54.5)
⑩ 地域への情報発信	29.5%	(38.6)	38.6%	(38.6)
⑪ その他	4.5%	(5.1)	11.4%	(9.1)

⑧学校の特徴を活用した地域貢献の割合が43.2%と高く、次に、②高齢者・障害者・子どもとの交流などを通じた学習活動が38.6%、⑨地域への奉仕が36.4%など、多様な活動が行われている。

「地域に資する人材育成」の観点では、④地域の活性化や振興への参画、⑤地域文化等に関する取組、⑦企業との連携・協働に生徒が参画することも重要である。しかし、④は昨年度よりやや増加(+4.5%)しているものの、⑤(-4.5%)、⑦(-2.3%)は減少しており、コロナ禍で地域の方と直接連携することが難しかったことがうかがえる。また、⑥地域の行事や活動に参加についても、行事等の中止や縮小により活動ができなかったと思われる。その中で、②高齢者・障害者・子どもとの交流などを通じた学習活動は、38.6%（昨年度 36.4%、+2.2%）、⑧学校の特徴を活用した地域貢献においては、43.2%（昨年度 38.6%、+4.6%）と増加している取組もある。



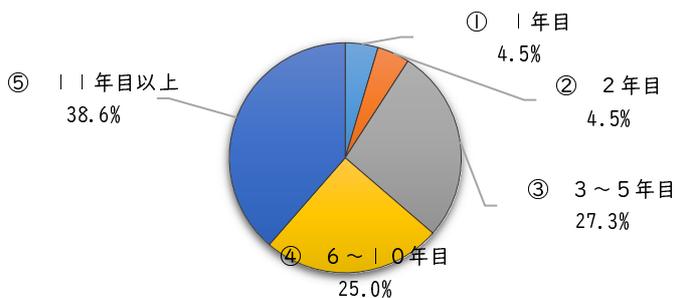
問3：本事業及び「全般」の取組は、年間、のべ何日活動を実施しましたか。

	合計	平均
本事業	1,773日(昨年度1,686)	41.2日(昨年度38.3)
全般	2,353日(昨年度2,016)	53.4日(昨年度45.8)

問4：本事業で実施した取組は、始めて何年目になりますか。あてはまるものを1つ選択してください。

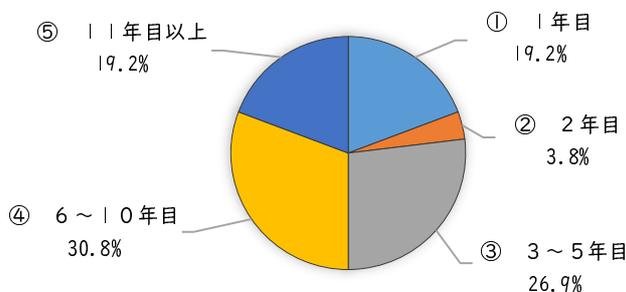
取組1

① 1年目	4.5%	(15.9)
② 2年目	4.5%	(2.3)
③ 3～5年目	27.3%	(29.5)
④ 6～10年目	25.0%	(20.5)
⑤ 11年目以上	38.6%	(31.8)



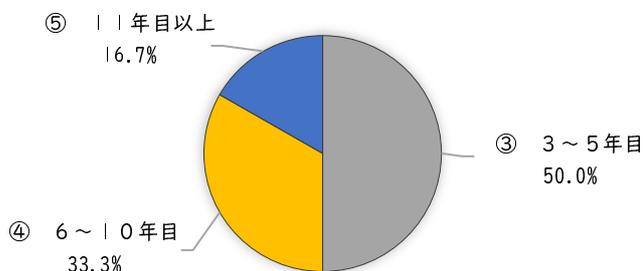
取組2

① 1年目	19.2%	(8.3)
② 2年目	3.8%	(8.3)
③ 3～5年目	26.9%	(25.0)
④ 6～10年目	30.8%	(20.8)
⑤ 11年目以上	19.2%	(37.5)



取組3

① 1年目	0.0%	(31.6)
② 2年目	0.0%	(0.0)
③ 3～5年目	50.0%	(10.5)
④ 6～10年目	33.3%	(31.6)
⑤ 11年目以上	16.7%	(26.3)



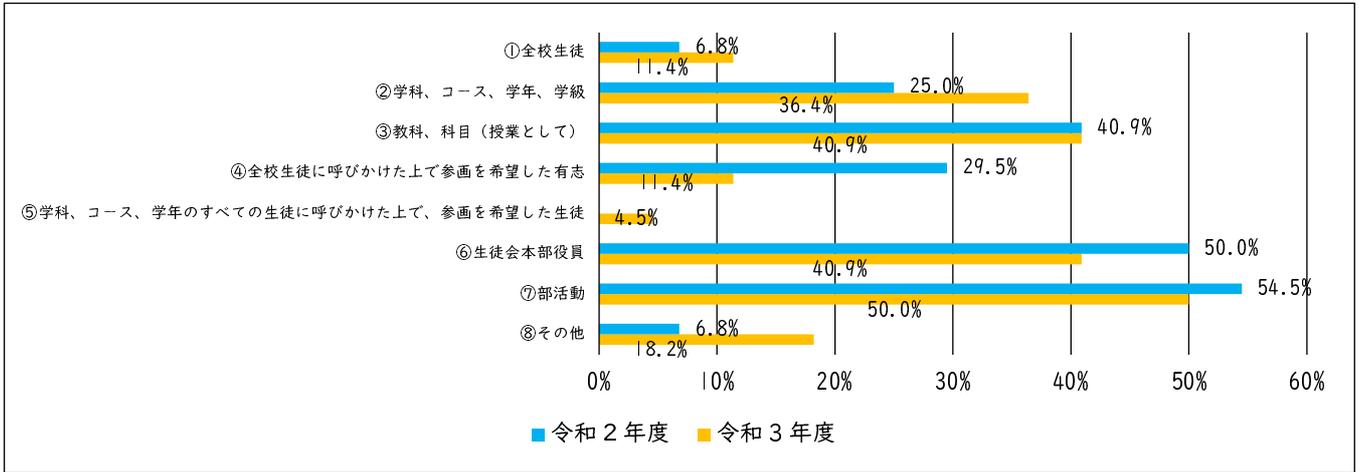
新型コロナウイルス感染症の影響で、中止や縮小した取組もあったと思われるが、地域とのこれまでのつながりを大切に、工夫や対策を行った上で継続的な取組が実施されている。今後は、コミュニティ・スクールの機能を活かし、「育てたい子ども像」や「目指す学校像」に合った取組を創出していくこと、また取組が「育てたい子ども像」や「目指す学校像」につながるものになっているかを検証し、内容について修正、発展させていくことが重要である。

問5：本事業及び「全般」の取組に関わっている生徒の立場は、次のどれに当たりますか。あてはまるものを全て選択してください。

	本事業		全般	
	割合	人数	割合	人数
① 全校生徒	11.4%	(6.8)	18.2%	(18.2)
② 学科、コース、学年、学級	36.4%	(25.0)	47.7%	(38.6)
③ 教科、科目(授業として)	40.9%	(40.9)	52.3%	(43.2)
④ 全校生徒に呼びかけた上で参画を希望した生徒	11.4%	(29.5)	27.3%	(45.5)
⑤ 学科、コース、学年すべての生徒に呼びかけた上で、参画を希望した生徒	4.5%		11.4%	
⑥ 生徒会本部役員	40.9%	(50.0)	54.5%	(65.9)
⑦ 部活動	50.0%	(54.5)	52.3%	(61.4)
⑧ その他	18.2%	(6.8)	15.9%	(9.1)

(44校中) (44校中)

⑦部活動が50.0%、⑥生徒会が40.9%と高い数値であり、学校の強みを活かして地域とつながっていることがうかがえる。昨年度と比較し、①全校生徒は11.4%(昨年度6.8%,+4.6%)、②学科、コース、学年、学級は36.4%(昨年度25.0%,+11.4%)と増加している。本事業を「教育課程の一環」として位置付け、「社会に開かれた教育課程」実現のための方策として、活用した学校が増加している。



問6：本事業及び「全般」の取組に関わった生徒数を、「のべ人数」でお答えください。

	合計	平均
本事業	10,649人(昨年度 6,164)	242.0人(昨年度 140.1)
全般	15,540人(昨年度 9,969)	353.1人(昨年度 226.6)

問7-1：本事業の取組を通して、生徒にどのような力や意識が身に付くことを期待しましたか。あてはまるものを全て選択してください。

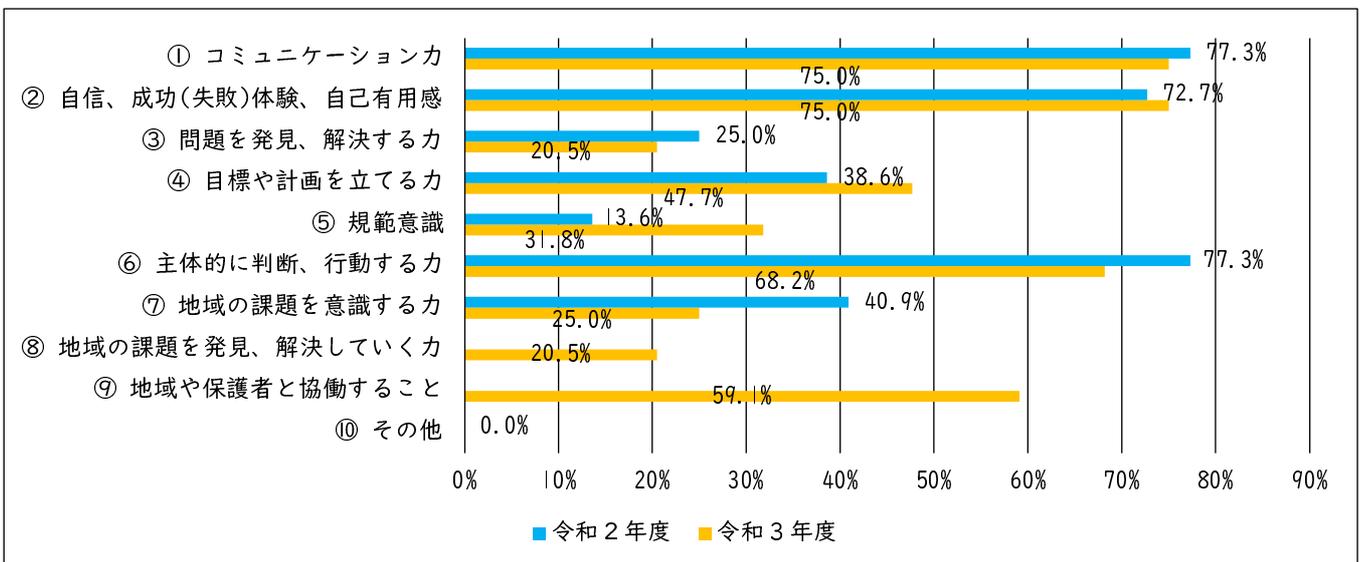
① コミュニケーション力	75.0%	(77.3)
② 自身、成功(失敗)体験、自己有用感	75.0%	(72.7)
③ 問題を発見、解決する力	20.5%	(25.0)
④ 目標や計画を立てる力	47.7%	(38.6)
⑤ 規範意識	31.8%	(13.6)
⑥ 主体的に判断、行動する力	68.2%	(77.3)
⑦ 地域の課題を意識する力	25.0%	(40.9)
⑧ 地域の課題を発見、解決していく力	20.5%	
⑨ 地域や保護者と協働すること	59.1%	
⑩ その他	0.0%	(0.0)

(44校中)

①コミュニケーション力が75.0%、②自信、成功(失敗)体験、自己有用感が75.0%、⑥主体的に判断、行動する力が68.2%となっており、多くの学校が目標(ねらい)として挙げている。

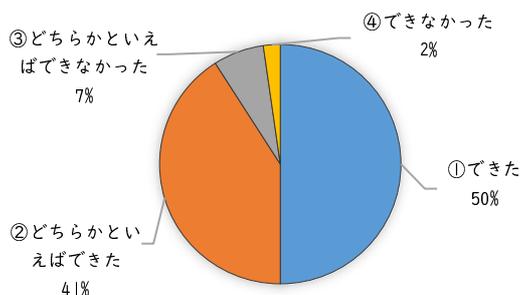
④目標や計画を立てる力については、47.7% (昨年度 38.6%, +9.1%) と増加しており、生徒が計画の段階から参画することを目標としてかかげた学校が増加している。

一方で、⑦地域の課題を意識する力は25.0%、⑧地域の課題を発見、解決していく力は20.5%であるが、生徒に地域の課題に目を向けさせ、地域の方々と協働し、「学校を核にした地域づくり」に資する取組を展開することも大切にしていきたい。



問7-2：「本事業」をとおして、問7-1の力や意識を身に付けさせることができましたか。

①できた	50.0%
②どちらかといえればできた	40.9%
③どちらかといえればできなかった	6.8%
④できなかった	2.3%



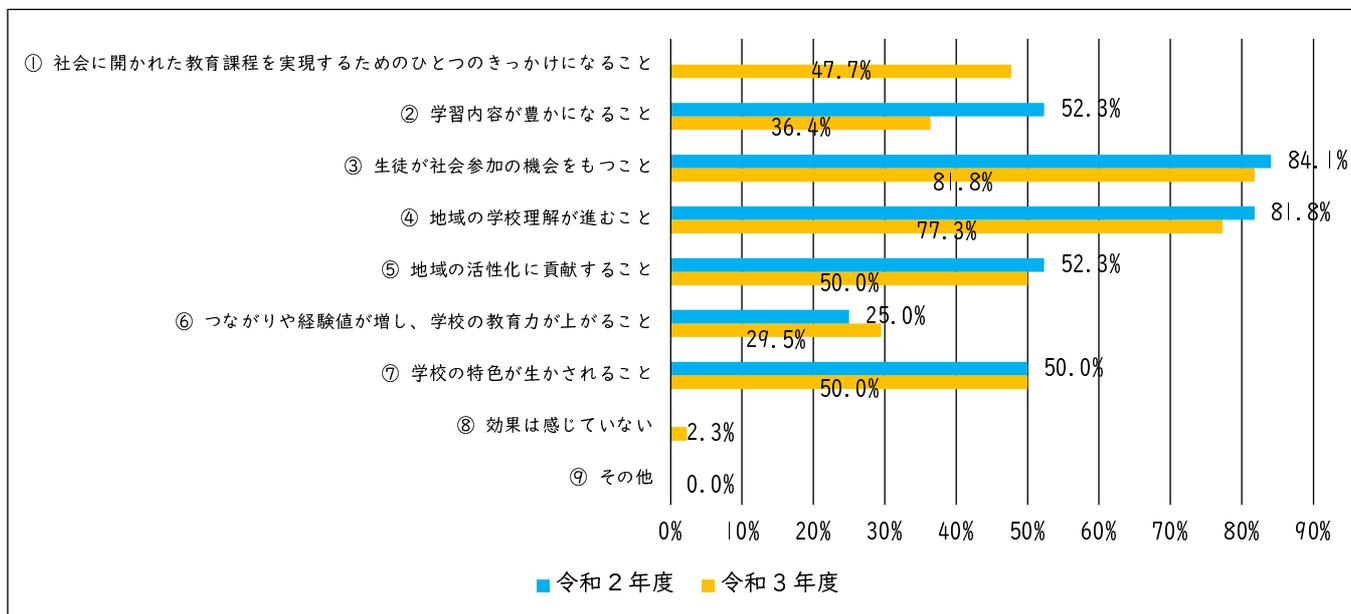
①できた(50.0%)、②どちらかといえればできた(40.9%)であり、①と②の合計90.9%が生徒につけたい力や意識を身に付けさせることができたと回答している。その一方で、③どちらかといえればできなかった(6.8%)、④できなかった(2.3%)であり、③と④の合計9.3%はできなかった旨の回答をしている。生徒に付けさせたい力や意識に迫ることのできる取組になっていたかどうかについて、年度末に点検し、次年度の取組の改善につなげていくことが重要である。

問8：本事業を実施したことによる、学校及び生徒への効果は何であると思いますか。あてはまるものを全て選択してください。

① 社会に開かれた教育課程を実現するためのひとつのきっかけになること	47.7%	(52.3)
② 学習内容が豊かになること	36.4%	(52.3)
③ 生徒が社会参加の機会をもつこと	81.8%	(84.1)
④ 地域の学校理解が進むこと	77.3%	(81.8)
⑤ 地域の活性化に貢献すること	50.0%	(52.3)
⑥ 職員のつながりや経験値が増し、学校の教育力が上がること	29.5%	(25.0)
⑦ 学校の特色が生かされること	50.0%	(50.0)
⑧ 効果は感じていない	2.3%	(0.0)
⑨ その他	0.0%	(0.0)

(44校中)

多くの学校が、③生徒が社会参加の機会をもつこと、④地域の学校理解が進むこと、をやりがいと捉えている。また、①社会に開かれた教育課程を実現するためのひとつのきっかけになることが47.7%と約半数となっている。今後一層、新学習指導要領の前文に掲げられている「社会に開かれた教育課程」実現のためのひとつのきっかけとなるような、教育課程に関連付けた取組の展開を進めていただきたい。

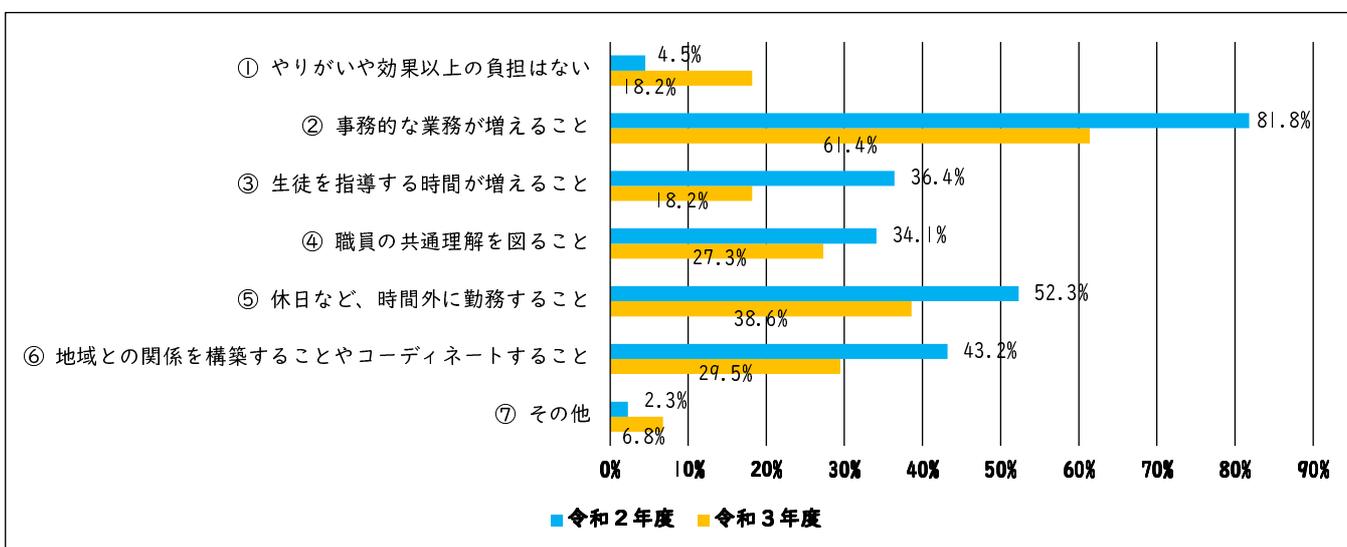


問9：「本事業」のやりがいや効果以上の負担があるとすれば、それは何であると思いますか。あてはまるものを全て選択してください。

① やりがいや効果以上の負担はない	18.2%	(4.5)
② 事務的な業務が増えること	61.4%	(81.8)
③ 生徒を指導する時間が増えること	18.2%	(36.4)
④ 職員の共通理解を図ること	27.3%	(34.1)
⑤ 休日など、時間外に勤務すること	38.6%	(52.3)
⑥ 地域との関係構築（維持）やコーディネート	29.5%	(43.2)
⑦ その他	6.8%	(2.3)

(44校中)

昨年度に比べて負担に感じている割合が全ての項目で減少している。しかし、②事務的な業務が増えること及び⑤休日など、時間外に勤務することなどについては、他の項目に比べて高い割合になっている。一部の担当者だけに過度の負担がかからないように、教職員間の連携・共通理解等とおして、負担の軽減または解消を図る必要がある。

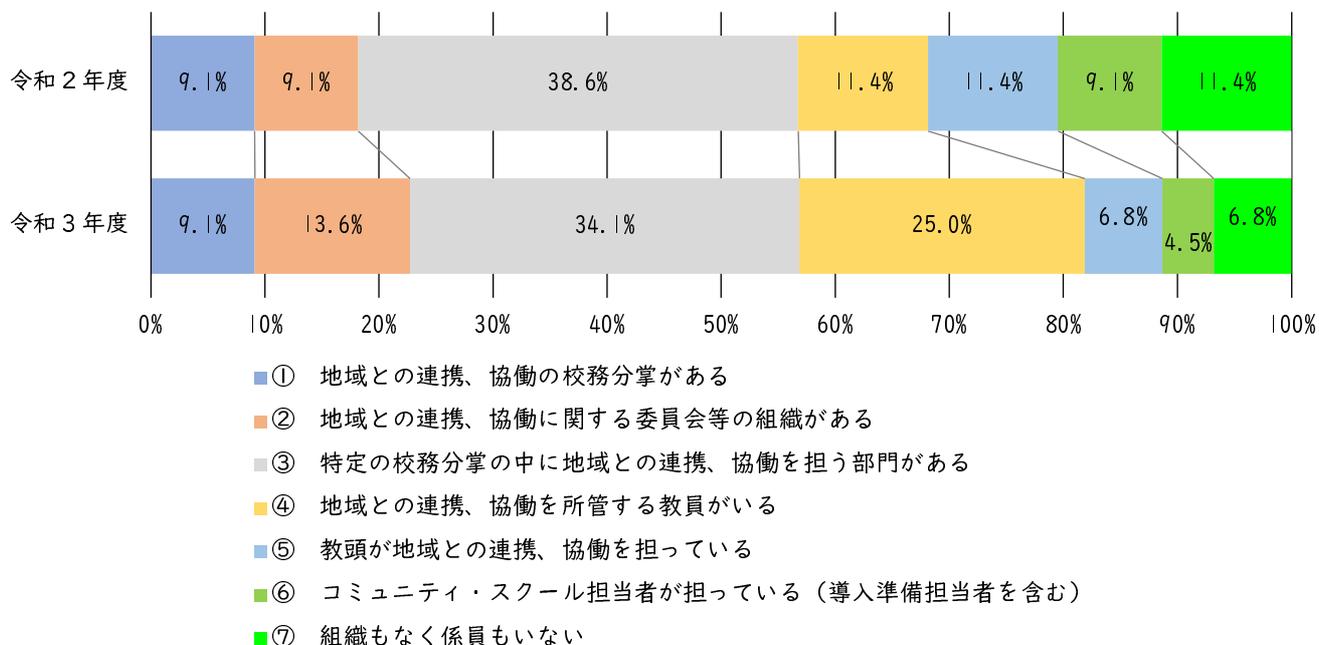


問10：「地域と共にある学校づくり」を担当する組織は、校内組織に位置付けられていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

① 地域との連携、協働の校務分掌がある	9.1%	(9.1)
② 地域との連携、協働に関する委員会等の組織がある	13.6%	(9.1)
③ 特定の校務分掌の中に地域との連携、協働を担う部門がある	34.1%	(38.6)
④ 地域との連携、協働を所掌する教員がいる	25.0%	(11.4)
⑤ 教頭が地域との連携、協働を担っている	6.8%	(11.4)
⑥ コミュニティ・スクール担当者が担っている（導入準備担当を含む）	4.5%	(9.1)
⑦ 組織もなく係員もいない	6.8%	(11.4)

地域との連携・協働を所掌する①校務分掌や②委員会等や③部門など、地域との連携、協働を組織に位置付けている学校は56.8%であり、昨年度と同程度である。コミュニティ・スクール担当者が担っている割合は4.5%と、昨年度より減少しているが、⑦組織はなく係員もいないとする学校が6.8%（昨年度11.4%、-4.6%）であり、今後更なる減少を目指したい。

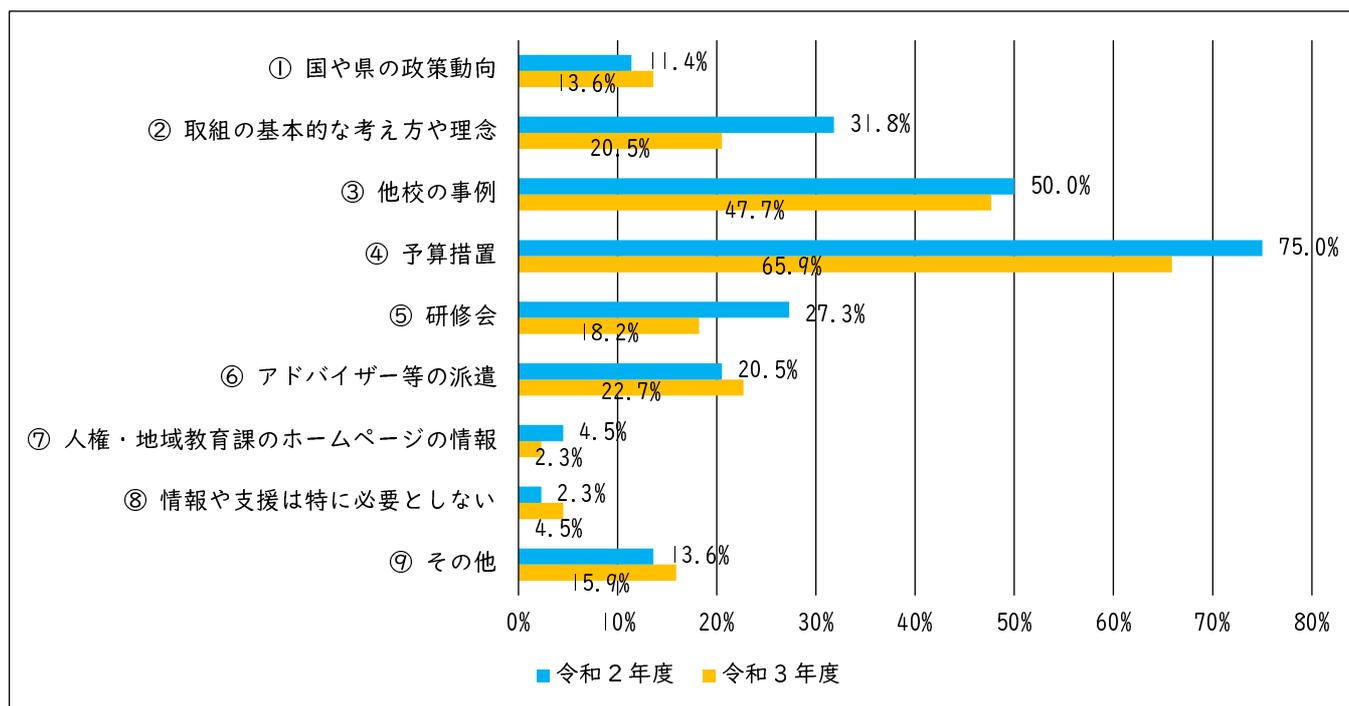
組織的・継続的な取組を実現していくためには、コミュニティ・スクール担当者が本事業を担い、学校運営協議会において共有された「育てたい子ども像」、「目指す学校像」実現のための取組を、本事業の取組に落とし込んで進めていくことを推奨したい。



問11：貴校における「地域と共にある学校づくり」を一層推進するために必要とする情報や支援は何であると考えますか。あてはまるもの全てを選択してください。

① 国や県の政策動向	13.6%	(11.4)
② 取組の基本的な考え方や理念	20.5%	(31.8)
③ 他校の事例	47.7%	(50.0)
④ 予算措置	65.9%	(75.0)
⑤ 研修会	18.2%	(27.3)
⑥ アドバイザー等の派遣	22.7%	(20.5)
⑦ 人権・地域教育課のホームページ情報	2.3%	(4.5)
⑧ 情報や支援は特に必要としない	4.5%	(2.3)
⑨ その他	15.9%	(13.6)

(44校中)



：本事業に参加・参画した感想を書いてください。【抜粋】

私たちは12月25日、27日に佐保川こども園とミック登美ヶ丘で、クリスマスコンサートと年の瀬コンサートをさせていただきました。新型コロナウイルス感染症対策のため、部員の中から15名程度での演奏となりました。こども園では演奏だけでなく、簡単な劇や指揮者体験も行いました。ミック登美ヶ丘では昔懐かしい曲などを演奏し、大変よろこんでいただきました。こどもたちや年配の方など、聞き手に合わせた曲目や構成を企画し、試行錯誤しながら部員同士協力することができました。これらの経験をもとに、今後は音楽を通して色々な人とつながれるような演奏に取り組んでいきたいと思います。また、これらの演奏会を通じて、相手の気持ちを考えて行動する力をもって、部活動や日々の生活を送っていきたくて考えています。また、地域の方々に支えられていることへの感謝も忘れずにこれからも活動していきたいです。

新型コロナウイルス感染症の感染防止につとめながら、10月に行われた中学生の体験入学では、お点前を見学していただきました。中学校の時に世話になった先生が来られていたので緊張しましたが、お点前を見ていただき嬉しかったです。また動画を撮影し、高校のホームページにアップしました。感染防止のため、見学だけになってしまったのは残念でしたが、地域のお茶会を催すことができるようになったら、お客様におもてなしをして喜んでもらいたいと思います。

生徒会活動の一環であり、生徒会会長として参加した。活動を通して、周りを見る力や、しっかり仕事をやり遂げようとする意識がついたと思う。時間のかかるゴミの分別作業においては、効率よくするためにどうするかを皆で考え、チームワークも育った。清掃活動でいえば、イベント感を加えて楽しめる活動にしたら良いと思う。回収ゴミの重さなど、何らかの要素で競ったり、順位をつけたりして表彰するなど楽しいと思う。生徒会長というリーダーとして、適切な計画・指示のもと、みんなの団結力を活かして、学校だけでなく斑鳩町もきれいに、住民の人たちから応援されるような最高の学校にしていきたい。

泣いている子やぐずっている子に、先生方はうまくなくさめたり、気分転換をさせたりしておられた。初めての参加ではじめは緊張したが、子どもたちと触れ合っているうちに緊張もほぐれ、とても楽しかった。子どもたちに癒やしてもらって、エネルギーをもらった。ますます、保育士になりたいと思った。将来、保育にかかわる仕事をしたいと思っているので、とても貴重な体験をさせていただいた。このような場所があることは、子どもにとっても保護者にとっても大切だということを知らせていただき、勉強になった。

私は、しごとの農場班で、近畿大学の先生や学生さんと活動しました。大学の先生からは、大和農法の説明を聞きました。いつもやっているやり方とは違った方法で、肥料も別の物を使うことがわかりました。また、学生さんとはいろいろな話しをしながら一緒に作業するのが楽しかったです。さらに、地元企業の協力を得て農場に建ててもらったビニールハウスで、大和マナを栽培したことも貴重な経験となりました。これからも、いろいろな人とのかかわりを大切にしていきたいと思います。

自分だけの視点でなく、第三者の視点に立って物事を考えられるようになったので、人をまとめる立場になった時に、自分よがりになって目先の事だけを考えるのではなく、周りのことを考えられるようになると思います。

将来、保育士を目指しているため、3年で「保育」の授業を選択しました。実習では、想定外のことが多く発生したので、保育園児の発達状態をより深く勉強するとともに、事前に十分な計画を立てて臨むことが必要であると思いました。

地域の方々に、日頃の吹奏楽やコーラス練習の成果を発表することと同時に、音楽を通じて関わっていただいた様々な方とコミュニケーションを図ることができた。その中で、音楽の力を再確認する

とともに、周りの方々に支えられ、自分自身がいることが再認識できた。今後は、コロナ禍で活動が制限されていますが、活動の幅を狭めるのではなく、最大限、今できることを模索し、音楽を通じて地域と学校のつながりを大切にしたい。

部活動を通してシトラスリボンプロジェクトやエコバッグの取組を知った。人とコミュニケーションを取ることが苦手で、自分から人に働きかけることはできなかったが、活動を通して知らない人も話をするができるようになった。今までも、困っている人を助けたいという気持ちを持っていたので、これをきっかけに生徒会に立候補し、積極的に人の役に立つ活動をしていきたいと思っている。

初めての英語交流活動だったので緊張しました。先生方のサポートをいただきながらではありましたが、小学校の子どもたちが積極的に私たちの授業に参加をしてくれました。無事に終えることができました。授業を受ける側から、授業をする側となって改めて双方の視点について考えることができました。良い体験ができました。

地域の方々に喜んでいただけるような活動をしたいと考え、この取組に参加しました。元々、人と話すことが苦手でしたが、地域の方々と交流を重ねていくうちにコミュニケーション能力を身に付けることができました。今後の大学での学びの中にも、地域との関わりの中で学んだ力を活かしていきたいと思います。

ライフクリエイトコースの授業の一環として参加した。様々な活動をする中でコミュニケーション能力、問題解決力、他者理解の力が身についたと感じる。今後は、コロナ禍で直接関われなかったことも園や老人ホームでの実習に参加したい。将来、家族の介護や子育てに活かしたいと考えている。

小学生をたくさん迎えて、いつもとは違う雰囲気の中、普段できないラグビーを経験でき、小学生との交流でコミュニケーション能力も高まりました。教えることの難しさをあらためて感じ、また一つ私たちも成長したと思います。小学生の笑顔を見られて私たちも元気をもらえました。

明日香村の里山クラブの方々がやっているクラフト体験活動である、明日香村の自然材（木の实、木の葉、木の枝等）を使ったメモスタンド作りを通して、明日香村の自然材の活用についての関心を高めることが、里山を守る活動につながっていることが分かった。

この取組で、地域と協力をして学校行事を盛り上げていくことの大切さを知りました。この経験から、今後就職した際に、会社の中だけで行事を盛り上げるのではなく、地域の方々を巻き込んで行事を盛り上げていきたいと強く思いました。

食品産業への就職を目指している為、HACCPについてより深く理解できた。学んだ内容を地域の食品製造業者と共有したいし、今後の実習や就職先で活かしていきたい。

校外学習として参加しました。地域の方が自分たちの歴史を大切にしていることがよく分かりました。自分の住んでいる所の歴史を学んでみたいという夢ができました。

販売に耐えられる製品作りは大変だったが、販売するという目的のために頑張って取り組むことができた。『レスティ唐古』（販売先）に置いてうれしかった。